

露國事情（政治） 三百七十六

一月十九日（月）

「ヘルシングスフオース」電報ニ依レハ芬蘭ニ於ケル社會民主黨會議ハ  
「ボルシエヰキ」ニ反對シ所謂賤民專制ニ反對ノ決議ヲナシタリ又同  
會議ハ第三「インテルナショナル」ニ加入スルノ可否ヲ衆議ニ問ヒタル  
ニ一六一人ノ内二七人ハ之カ加入スベシト其ノ他ハ之ニ反對セリ

（ロシヤ二四）

0473

露國事情 (政治) 三百七十八

一月二十日 火

露國一軍ルソウ、ウ、キ、政府高等機關反革命防止緊急中央委員會ハ地方

委員會ハ副令ヲ發シ「ボルシ」ニ「政府軍ハ反「ボルシ」

露政府軍ヲ征シ「ムサ」ニ「デニキ」ニ「コルテヤ」ツ「ク」ニ對シ

期ヲ制シタルヲ以テ最早「テロリ」ヲ有ラノ必要ナキヲ以テ「テロリ」

夕陽ニルソトニ決シタリ

(ロシア一月二十日)

露國事情（經濟） 三百八十 一月二十日（火）

英國商館ハ英國外務省ノ許可ヲ以テ「ラトヴィヤ」政府ト亞細亞買占ニ關スル契約ヲ締結シタリ又英國資本家ハ「ラトヴィヤ」ニ放發シテ諸般ノ事業ヲ行フヘシト聞フ

（ブリズイウー○）

0475

露國事情（軍事）

三百八十三

一月二十二日（木）

「ヘルシングダスアオトル」電報ニ依レハ「ボルシエ」政府ハ勳員ヲ行ヒ千八百八十六年、千八百八十七年、千八百八十八年及千九百一年度兵ヲ召集スルコトニ決セリ最近莫斯科ニ於ケル勞兵會會議ニ於テ「メシエ」政府ハ「社會民主黨」カ提起シタル「ボルシエ」政府ハ何故ニ「テロリ」ヲ廢止セサルヤトノ質問ニ對シ「カーメネフ」ハ答フルニ反革命防止緊急委員會ハ既ニ「テロリ」ヲ行ハサルモ勞働者之ヲ行ヒツツアリトノ言ヲ以テセリ

（ロシヤ一月二十二日）

0476



露國事情（政治）

三百八十四

一月二十二日（木）

「バトログラード」勞兵會ハ議員ノ選舉ヲ行ヒタリ同選舉ニ加ハリタル  
選舉人ノ數ハ二七九〇〇〇人ニシテ選舉セラレタル者一、八八五人此  
ノ内「ボルシエ」五三九人トス

（ロシヤ 一月二十二日）

0477

露國事情 (政治)

三百八十六

一月二十二日 (木)

伊國新聞

*Gazette des Indes*

ノ記事ニ曰ク最近英國政府ノ支持ニ依

リ露國「コオベラチヤ」中央委員會代表者「ベルケンハイム」

トボ「ボフ」ハ巴里ニ來レリ兩人ハ露國「ボルシエ」政府ヨリ聯

合國ト通商關係開始ニ關スル談判ヲナスノ全權ヲ委任セラレタリ兩人巴

里着ハ「コッペンハーゲン」ニ行ハレタル「ボルシエ」代表者「

リトヴィノフ」及英國代表者「オグラデ」ノ談判ノ結果トス云々

(ロシヤ 一月二十二日)

0478

露國事情（政治）

三百八十八

一月二十三日（金）

倫敦ニ在ル露米俱樂部晚餐會席上ニ於テ「ロイベルス」ハ「ボルシ」  
キ「的露國トノ通商開始カ如何ニ英國ノ爲重大ナル意味ヲ有スルカト  
ノコトニツキ一場ノ演說ヲ試ミタリ」ウオールズ「大佐ハ之ニ對シ答議  
ヲ述ヘ「ボルシ」  
「的露國ト通商ヲ開始セムトスル英國政府ノ政  
策ニ反對シ右通商開始ヲ提議シ來リタル在莫斯科「コオベラチヤ」聯合  
本部代表者ナルモノハ「ボルシ」  
「代表者ニ外ナラスト觀セリ

（ロシヤ 一月二十三日）

0479

露國事情(政治)

三百八十九

一月二十三日

(金)

「オデッサ」ハ「ボルシエ」軍ノ手ニ在ラシテ「ウクライナ」

一撥軍ノ手ニ在リ一撥軍ハ「デニキン」退却後同地ヲ占領セリ目下羅馬

尼國境ニハ「ウクライナ」「クリミア」地方ヨリノ避難民約四萬人在リ

(ロシヤ 一月二十三日)

0480

露國事情 (經濟) 三百九十

一月二十四日 (主)

昨年十二月十日「ペトログラード」ニ於ケル日用生活品ノ物價ハ左ノ如

シ (露斤) (我カ約百目) (ニ付)

パン 二百留

粉 (麥) 三百留

牛肉 六百留

稜 (キビ) 四百留

蕃粒 四百留

豆 九十留

バター 二千留

砂糖 百七十留

鹽 四百留

赤大根	燕麥	燕麥粒	馬肉	スメタネ	ブロス トクワシヤ	獸油	小牛肉	豚肉	鱈魚	生魚
六十五留	百五十留	四百五十留	二百留	九百留	三百留	千八百留	七百留	千二百留	二百留	四百五十留

大根

七十留

コンブ  
エソト  
千八百留

芋  
七十留

干酪  
千五百留

乾菜子  
二百四十留

鶏卵  
千留(十個)

牛乳  
百四十留(一リ)

(ロシヤ 一月二十四日)

0483



露國社會黨ノ一員ハ非「ボルセヴ」派ノ敵ニ依レハ露國「ボルセ  
 ヴ」キ「政府ハ漸次軟化シテ「ブルジョア」的共和政府トナルニ至ルハ  
 シ若外國ノ援助ニ成ル反革命運動起ルコト無クシテ此ノ儘ニ経過シナハ  
 數箇月ヲ経テ「ボルセヴ」キ「政府ハ無事ニ非「ボルセヴ」キ「的社會  
 主義政府ト化スニ至ルハキモ問題ハ「農民ノ向背態度如何ニ關係ス  
 角モ「ボルセヴ」キ「政府ノ命脈ハ握アルハキヲ以テ「ボルセヴ」キ  
 キ「政府領土ハ今日ヨリ金財ヲ外國ニ出シテ住宅ヲ買入レ何時ニテモ外  
 國ニ逃ク生計ヲ得ル準備ヲナシ居レリ「ボルセヴ」キ「政府ハ「テロリ  
 ヲ全然廢止スヘシ「ボルセヴ」キ「政府ハ有ユル手段方法ヲ以テ外國ト  
 通商ヲ開クノ目的ヲ達セムカ爲運動シツツアリ云々

（ロシヤ 一月二十五日）



露國事情(經濟) 三百九十四 一月二十六日(月)

波蘭政府ハ茶ノ專賣ヲ英國商人ニ許シタルカ波蘭茶商ハ之ニ反對シ共同  
シテ政府ニ抗議ヲ申込ミタリ又波蘭茶商ハ茶ノ消費稅ヲ一斤ニ付三馬克  
乃至三馬克トスヘントノ提議ヲナセリ三馬克乃至三馬克ノ消費稅ヲ課ス  
ルハ毎年ノ國庫ノ收入ノ二〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇乃至三〇〇、〇〇〇、  
〇〇〇馬克ナルヘシ。

フリスアイウ(一月十八日)

0485

機務事情（軍務） 三百九十六 一月二十七日（火）

「ボルネオ」中ニ機關紙ノ所報ニ依リ「ボルネオ」中ニ政府軍ニ

服務中ノ支那兵ハ其ノ數五千人ヲ超ヘス支那軍司令官ハ支那人「ルンダ

ツエング」ナリ

（ロシヤ）一月二十七日

0486

露國事情（軍事） 三百九十七 一月二十七日（火）

倫敦電報ニ依レハ獨逸ニ於テハ換國ニ在ル露國俘虜ヲ以テ新ニ反メボル  
シエツキニ軍編制ノ計畫アリテ目下藥業編制中ナリ  
ハフブランデンブルグ一及メザクゼン一地方ニ配置セラレタリ

（ロシヤ）一月二十七日

露國事情（經濟）

四百

一月二十八日（水）

英國商人ハ白蠟ニ於テ山林買收運轉ヲ始メ私有林ヲ買入ルホルカ今又官  
林ヲ買入レムトシ且下白蠟廠庶下餉割中ナリ右英國商人一行ハ目下一

ルカキニ在リ

（フリスイウ） 一月三十一日

0488

露國事情（經濟） 四百三

月二十九日（木）

露國ニ放下シ在ル獨逸ノ資本ハ八一五〇〇〇〇〇〇〇〇〇留ナルモ此ノ高  
ハ株式會社ニ放下シアルモノニシテ此ノ外ニ少カラサル獨逸ノ資本在リ  
右金高ノ内二十七「プロセント」ハ露西亞ノ諸銀行ニ在リテ二十一「プロ  
セント」ハ軍事其ノ他ノ交通事業、十一「プロセント」ハ紡績事業、九「プロ  
セント」ハ製鐵事業ニ、八「プロセント」ハ石油事業ニ、五「プロセント」  
ハ機械製造事業ニ、五「プロセント」ハ鑛山事業ニ、二「プロセント」ハ化  
學工業ニ、「プロセント」ハ電氣事業ニ投資セラル

（ゴロシイ 一月二十五日）

0489

露國事情（政治） 四百五

二月二十九日（木）

露國邊境諸國の人口及面積

エストニア 四七、五〇〇平方キロメートル、七五〇、〇〇〇人

内九三% エストニア人ナリ

ラトヴィヤ 六四、一九六平方キロメートル、五五三、〇〇〇人

内七二% ラトヴィヤ人ナリ

リトアニア 一三、五〇〇平方キロメートル、六〇〇、〇〇〇人

白 露 三〇〇、〇〇〇八二 一四、七五〇、〇〇〇人

内七〇% 白露人ナリ

ウクライナ 八〇〇、〇〇〇八二 四五〇、〇〇〇人

内七三% ウクライナ人ナリ

フィンランド 八五、〇〇〇八二 三、五〇〇、〇〇〇人

北高加索	一五〇、〇〇〇平方メートル	四、三〇〇、〇〇〇人
アゼルバイジャン	一〇〇、〇〇〇平方メートル	四、五〇〇、〇〇〇人
イリヤン	内七五% タムルロ、驢組人	
ゲルグヤ	九〇、〇〇〇平方メートル	三、〇〇〇、〇〇〇人
	内七五% ゲオルジヤ人ナリ	
アルメニア	三二〇、〇〇〇平方メートル	四、〇〇〇、〇〇〇人
	内七三% アルメニア人ナリ	



辭國事情(軍用)

四百七

一月三十日(金)

莫斯科に於てハ一軍ルシ  
其學校設立ノ目的ハ教育ヲ養成スルニ在リ

(ロシヤ 一月三十日)

0492



辭職事情（政治） 四日八

一月三十日（金）

南露「エカテリノダール」ニ於テハ新政府組織セラレタルガ其ノ顔觸ハ

左ノ通

總理大臣

ルヨムスカー將軍

陸海軍大臣

ウヤズミチノフ

大藏

ハバサツキ

糧食

サウイツチ

内務

トルベツコ公

交通

チフメネフ

商工

ブーニン

（ブリズイツ 一月二十四日）

0493

露國事情（經濟） 四百九 一月三十一日（土）

露國一「ボルシ」エツキ「政府管区内」於「兵船彈藥製造」為作業中ナリ  
シ工場ノ五十一「プロセント」ハ燃料及衣料缺乏ノ為閉鎖セラレ現在作業  
繼續中ノ工場ハ左ノ如シ

一 グシヨン佛國工場 勞働者ノ數 五千人

二 ジヤコヘンル佛國工場 五百人

三 チンデル工場 三千人

四 アロコトボア工場 千五百人

五 キユブネル工場 千人

六 シラルドウスキー工場 不明

七 ドウタス工場 不明

八 シンツソン工場 五百人

- 九 ハルウエステル工場
- 十 ジングル工場（モスタワ附近）
- 十一 アルマンス工場
- 十二 ターメンバキ工場
- 十三 ラジノオストロスキ工場

二千八

不明

不明

六千人

二千人

（昭和十一年一月三十一日）

極

供

供

三月二十八日 陸軍部 陸軍大臣 陸軍省 陸軍部 陸軍大臣 陸軍省

極秘

東進スル過激派軍ノ行動中止提議ニ關スル件  
大臣ヨリ浦南派遣軍司令官ヘ電報

軍務局長 正 方 提議 課長 過激派軍ヨリ 遣軍ニ對シテ 行

込ナリヤ否不明ナルモ 萬一將來彼カ真面目ニ如上一ノ  
提議ヲ為ス場合 於テハ帝國政府ノ關知セサルコ

④

トトシテ非公式ニ兩軍限リ交渉ヲ行ヒ帝國政府ノ  
宣言及之ニ伴フ派遣軍警告ノ主旨ヲ通告シ露

國勞農政ヲカ其ノ軍隊ヲ貝加爾湖以東ニ進ム  
ルコトナク且極東政ヲ團體ニ對スル我警告ノ主旨

ヲ容認スルニ於テ兩軍間ニ於テ純然タル軍事上  
ノ要ノ取極ヲ行フハ差支ナキコト承知セララルヘシ

第一班長

第三班長

第二班長

別書指し受て五年丙寅  
御の目反

了

廿日申辰

古の大方少佐

0497

# 官報

號外

## 告示

嚮ニ帝國ノ西比利亞ニ出兵シタルハ「チエックスロウツァ」ク軍ノ救援ヲ目的トシタルモ、ナルカ故同軍ノ引揚ニシテ事實完了シタル上ハ帝國モ亦撤兵ノ舉ニ出ツヘキハ出兵當時ノ宣言ニ依リ明ナリ然リト雖帝國ノ西比利亞ニ對スル地理的關係ハ他ノ列強ト自ラ其ノ趣ヲ異ニシ特ニ極東西比利亞ノ政情ハ直ニ鮮滿地方ノ情況ニ波及スルノミナラス西比利亞地方ニ於ケル多數ノ居留民ハ其ノ生命財產ノ安全ヲ期スル能ハサルノ實情ニ在リ是レ帝國カ速ニ撤兵ヲ決行スル能ハサル所以ニシテ其ノ間露國ニ對シテ何等政治的野心アルニアラス故ニ我接壤地方ノ政情安定シテ鮮滿地方ニ對スル危險除去セラレ我居留民ノ生命財產ヲ安固ナラシメ交通ノ自由保障セラルルニ至ラハ「チエックスロウツァ」ク軍ノ撤去完了後成ルヘク速ニ西比利亞地方ヨリ我軍隊ヲ引揚クヘク茲ニ重テ我誠意ノ存スル所ヲ聲明ス

大正九年三月三十一日

内閣總理大臣兼  
司法大臣

原 敬

海軍大臣

加藤友三郎

外務大臣

子爵内田康哉

大藏大臣

男爵高橋是清

陸軍大臣

田中義一

農商務大臣

山本達雄

内務大臣

床次竹二郎

文部大臣

中橋徳五郎

逓信大臣

野田卯太郎

海軍

0498

官報號外

大正九年三月三十一日 (明治三十五年第三種)

(改正印刷)

軍務局

極秘

要手渡

陸軍省

(大正九年四月二十七日閣議決定)

北部沿海州派遣隊司令官ニ與フル任務ノ件  
北部沿海州派遣隊司令官ハ隸下部隊ヲ以テ  
コニコラエウスケニ到リ我守備隊以下居留民ヲ救  
援シ爾後該地附近ニ於ケル帝國居留民ノ保  
護及治安維持ニ任ス  
特ニ一部隊ヲ亞港ニ配置シ帝國居留民ノ  
保護及治安維持ニ任ス

0499

秘

陸軍省

（大正九年四月二十七日閣議決定）

陸軍大臣ヨリ北部沿海州派遣隊司令官

ニ與フル指示ノ件

- 一、露軍ニ對シテハ先ツ温和ナル手段ヲ以テ目的ヲ遂行スルコトヲ努メ若其ノ抵抗ヲ受クルニ際シテハ適應ノ處置ヲ採ル
- 二、派遣隊ニハ外交官ヲ附屬セシメラル事ノ外交ニ關スルモノハ同官ヲシテ處理セシム
- 三、露國及諸外國官民トノ接觸ノ良好ニシ帝國ノ誠意ヲ了解セシムルニ努ム
- 四、軍事行動地域内ニ於ケル露國官憲ノ行政ハ

閣下



民意ト舊慣トヲ顧慮セシメ要スレハ同官憲ヲ  
支援シテ施政ヲ容易ナラシムヘシ而シテ特ニ露國  
民心ノ趨向ヲ察シ之ニ順應シテ措置宜シキニ  
適セシムル如ク指導スヘシ

五、帝國軍隊ト外人トノ關係ハ其ノ風俗習慣ヲ異ニ  
シ言語相通セサル為從來事故ヲ發生シタルコ  
ト甚ナカラス努メテ之ヲ防止スルト共ニ若シ事端  
發生セハ所在官憲速ニ適宜ノ處置ヲ講シ累  
ノ國交ニ及ホササルコトニ留意スルヲ要ス

六、朝鮮人ニ對シテハ特ニ帝國出兵ノ意義ヲ普傳  
シテ之ヲ親目的ニ指導スルト共ニ恩威併セ行  
ヒ其ノ狂暴ナル態度ヲ戒メ我軍ノ行動ヲ妨害  
セシメサルコトヲ勉ムヘシ

0000

0501

極秘

陸軍省

(大正九年四月二十七日閣議決定)

烏蘇里鐵道運行改善ニ関スル件

現下烏蘇里鐵道ハ露國從業員ノ結束的罷業竝過激派ノ線路破壊其ノ他各種ノ妨害ヲ蒙ルリ爲ニ交通全ク杜絶ノ状態ニアリ而シテ現況ヲ自然ノ推移ニ委スルハ軍ノ存立ヲ危殆ナラシムルヲ以テ軍ハ自衛上自ラ起テ該鐵道ノ運行ヲ實施シ自己ノ安全ヲ確保セサルヘカラス依テ應急ノ處置トシテ近ク交代スヘキ鐵道隊大正五年兵ノ歸還ヲ一時見合セ且南滿洲ニ駐屯シアル工兵第十六大隊ヲ一時西伯利ニ派遣シ鐵道運行業務人

0502

員ノ不足ヲ補足シ現況ノ急需ニ應スルコトト致度

右ニ要スル經費左ノ如シ

一、鐵道隊ノ交代兵帰還見合セノ爲

維持費 月額 約五萬圓

二、工兵第十六大隊派遣ノ爲

一時費 月額 約八萬圓

維持費 月額 約六萬圓

0503

供覽

極秘

軍務局長

第一課長

第二課長小坂

訓令

九四二六

陸軍省中佐山古侯在

送付

送付

0504



一、北部沿海州派遣隊司令官、左記部隊ヲ以テ、  
ニヨラエラスクニ到リ我守備隊以下居留民ヲ救援シ爾後該地附近ニ於ケル帝國居留民ノ保護及治安維持ニ任スハシ  
特ニ一部隊ヲ北樺太ニ配置シ帝國居留民ノ保護及治安維持ニ任スハシ

派遣隊司令部

歩兵第二十五聯隊

歩兵第二十五聯隊八二大隊編成

步兵獨立大隊  
獨立步兵隊

騎兵小隊

山砲兵大隊

山砲兵獨立中隊

工兵中隊

電信隊

患者收容班

「コラエラス」到着後第十四師團、該地  
守備隊。一時其指揮下ニ入ラシム

0505

前記諸部隊ハ編成完結ノ時ヲ以テ北部沿

海州派遣隊司令官ノ隸下ニ入ルモノトス

三細部ニ關シテハ參謀總長ヲシテ指示セラル

大正九年四月二十日

奉勅 參謀總長男爵上原勇作

北部沿海州派遣隊司令官津野一輔殿

第十七師團長古海巖潮殿

近衛師團長藤井幸槌殿

第七師團長内野辰次郎殿

遺教

ノトノ五ノ排至之隊ニ四捕獲見直進ニ四官ニ

西密第一五二號

北部沿海州派遣隊司令官へ指示ノ件

通牒

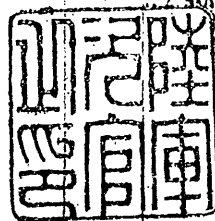
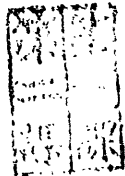
大正九年五月七日 陸軍次官山梨半造

海軍次官枋内曾次郎殿



指示相成候條及通牒候也

軍政司



軍務局長

9. 5. 8

0507

陸軍

北部沿海州派遣隊司令官へ指示

今次北部沿海州派遣隊ヲ「ニコラエウス」方面ニ派遣セラルルニ當リ五月一日作命第五〇號訓令ニ基キ所管事項ニ關シ左ニ指示ス

一、露軍ニ對シテハ先ツ温和ナル手段ヲ以テ目的ヲ遂行スルコトヲ努メ若シ其ノ抵抗ヲ受クルニ際シテハ適應ノ處置ヲ採ルヘシ

二、派遣隊ニハ外交官ヲ附屬セシメラル事ノ外交ニ關スルモノハ同官ヲシテ處理セシムヘシ

三、露國及諸外國官民トノ接觸ヲ良好ニシ帝國ノ誠意ヲ了解セシムルニ努ムヘシ

四、軍事行動地域内ニ於ケル露國官憲ノ行政ハ民



意ト奮憤トシテ顧慮セシメ要スレハ同官憲ヲ支援シ  
テ施政ヲ容易ナラシムヘシ而シテ特ニ露國民心ノ  
趨向ヲ察シ之ニ順應シテ措置宜シキニ適セシ  
ムル如ク指導スヘシ

五、帝國軍隊ト外人トノ關係ハ其ノ風俗習慣ノ異ニシ言  
語相通セサル為從來事故ヲ發生シタルコト尠ナカラス  
努メテ之ヲ防止スルト共ニ若シ事端發生セハ所在官  
憲速ニ適宜ノ處置ヲ講シ累テ國交ニ及ホササルコ  
トニ留意スルヲ要ス

六、朝鮮人ニ對シテハ特ニ帝國出兵ノ意義ヲ普傳シテ之ヲ  
親日的ニ指導スルト共ニ恩威併セ行ヒ其ノ狂暴ナル態  
度ヲ戒メ我軍ノ行動ヲ妨害セシメサルコトヲ勉ムヘシ

陸軍大臣

0509

五

供覽  
[Signature]

軍務局

請願書

當西伯利ニ於テハ過般知多ニ極東共和國政府樹立セラレ憲法議會亦既  
 ニ開催セラレ候ヘドモ吾人ノ生活ハ未ダ以テ安定ヲ期シ難ク此ノ時ニ  
 當リ我帝國ノ輿論ハ漸ク西伯利撤兵ニ傾カントスルノ報頻到致シ爲ニ  
 吾人在留民ハ寔ニ不安ニ不堪ル次第ニ御座候抑々當地方在留民ハ移住  
 日久シク其ノ根柢亦甚ダ鞏固ナルガ故ニ嚮ニ露國革命以來騷擾危險ノ  
 地ニ克ク隱忍持久シテ日露貿易ノ復舊發展ヲ期シ只管其ノ時機ノ至ル  
 ヲ相待居候然ルニ一朝皇軍ノ撤退スルコトアリトセンカ吾人邦民ノ生  
 命財産ハ全ク脅威セラレ在留邦人ハ遂ニ撤退ノ止ムナキヲ得ザルニ至  
 リ忽チ生活難ヲ訴フルモノ續出スルナルベク而シテ一面數十年來ノ歴  
 史ヲ有セシ日露貿易ハ根柢ヨリ破壊セラレ之レガ復舊ハ到底短日月ノ  
 能クスル處ニ無之之ヲ大ニシテ國家ノ發展ノ爲メ小ニシテハ個人財政

軍務局受

0510

10. 2. 14

ノ爲ノ誠ニ遺憾ニ存候冀クバ這般ノ事情御賢察被成下在留邦人ノ生命  
及財産ノ保護ニ關シ最善ノ途ヲ講ゼラレ吾人ヲシテ退去スルノ必要無  
之様御計意相願度連署ヲ以テ此段請願仕候也

大正十年二月 日

浦潮斯徳日本居留民會頭

ニコリスク日本居留民會長

シコトワ日本居留民會長

ラズドリナヤ日本居留民會長

ボクラニチナヤ日本居留民會長

スパスカヤ日本居留民會長

細井 三吉

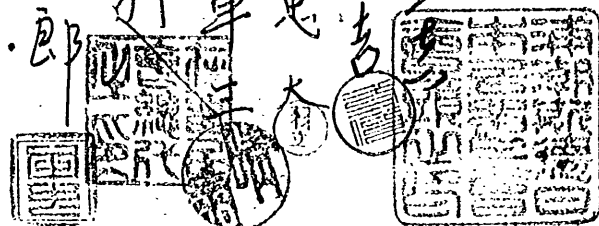
西 三吉

羽 立 忠 大

晴 氣 軍 持

井 手 利

田 中 五 八 郎



海軍大臣 加藤友三郎 殿

0511

✓ 2/21 出 6/11

編第三十一號

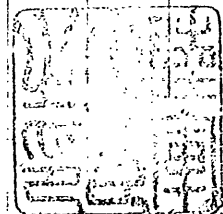
第九師團(輜重監視隊缺)ノ編成ヲ令セラル編成第一日ハ

四月一日ナリ

大正十年三月三十一日午前十時

陸軍大臣男爵田中義一

海軍大臣男爵加藤友三郎殿



軍務局 10. 3. 31

陸軍

0512

分令 陸軍省 陸軍部 陸軍大臣 陸軍部 陸軍部 陸軍部

極秘

寫

海軍省

陸軍部 陸軍部 陸軍部

一 薩哈連州派遣軍司令部官ハ陸

哈連騎兵中隊ヲ内地ニ歸還

セシムヘシ

該部隊ハ内地港灣上陸ノ時ヲ

以テ第七師團長ノ隸下ニ入ル

モノトス

二 細部ニ関シテハ陸軍大臣參謀

總長ヲシテ指示セシム

大正十年四月二十六日

奉勅 參謀總長子爵上原勇作



0513

薩哈喇州遊藝軍司令官兒島惣治郎殿  
第七師團長内野辰次郎殿

清

軍

(北野三郎)

6730

0514

陸軍省  
陸軍部

參一發第一六九號

大正十年五月十三日

參謀總長

通報

軍務局長  
10.5.18

供  
應

軍務局

第一課  
第二課

一、滿洲駐劄ノ為派遣セラレタル第十五師團ハ四月二十  
 四日又北支那ニ派遣セラレタル同師團ノ步兵一大隊  
 (步兵第六十聯隊第一大隊)ハ四月二十日ヲ以テ各第十  
 六師團ノ部隊ト交代ヲ終リ第十六師團ハ五月二日迄  
 ニ衛戍地ニ歸著セリ

二、朝鮮軍ヨリ輝春及間島地方ニ派遣シテアリシ部隊ハ五  
 月九日ヲ以テ全部輝春ニ撤退セリ

三、薩哈連騎兵中隊ハ該地ニ歸還ヲ命セラレ五月十日衛  
 戍地ニ歸著シ第七師團長ノ隸下ニ復歸セリ

四、浦潮ニ派遣セラレタル第九師團ハ五月七日ヲ以テ全

0515

ヲ	又	部
以	以	浦
テ	地	潮
全	=	=
部	歸	上
衛	還	陸
戌	ヲ	シ
地	命	浦
=	セ	潮
歸	シ	派
著	レ	遣
ス	タ	軍
ル	ル	司
豫	第	今
是	十	官
ナ	三	ノ
リ	師	隸
	團	下
	ハ	=
	五	入
	月	レ
	下	リ
	旬	

0516



秘

陸軍大臣加藤友三郎

西密第 八二號

復員ノ件 通牒

大正十年六月一日

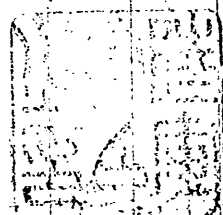
陸軍大臣男爵田中義一

海軍大臣男爵加藤友三郎殿

第十三師團ハ過般歸還ヲ命セラレ五月四

日ヨリ同月二十八日ニ互ル間ニ於テ内地ニ歸

著ノ上復員教候也



陸軍省 10.6

陸軍

0517

軍務局

供

海軍省

極秘

寫

本參謀作命第六五號

命令

一、第二師團ノ一部隊ヲ薩哈連州ニ  
 遣ハシ薩哈連州旅遣軍ノ主力ニ  
 ヲ交代セシム

二、第二師團長ハ六月中旬ヨリ左記  
 部隊ヲ薩哈連州ニ派遣スヘシ

三、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

四、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

五、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

六、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

七、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

八、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

九、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

十、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

十一、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

十二、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

十三、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

十四、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

十五、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

十六、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

十七、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

十八、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

十九、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

二十、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

二十一、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

二十二、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

二十三、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

二十四、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

二十五、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

二十六、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

二十七、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

二十八、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

二十九、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

三十、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

三十一、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

三十二、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

三十三、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

三十四、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

三十五、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

三十六、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

三十七、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

三十八、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

三十九、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

四十、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

四十一、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

四十二、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

四十三、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

四十四、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

四十五、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

四十六、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

四十七、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

四十八、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

四十九、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

五十、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

五十一、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

五十二、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

五十三、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

五十四、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

五十五、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

五十六、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

五十七、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

五十八、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

五十九、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

六十、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

六十一、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

六十二、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

六十三、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

六十四、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

六十五、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

六十六、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

六十七、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

六十八、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

六十九、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

七十、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

七十一、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

七十二、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

七十三、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

七十四、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

七十五、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

七十六、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

七十七、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

七十八、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

七十九、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

八十、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

八十一、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

八十二、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

八十三、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

八十四、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

八十五、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

八十六、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

八十七、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

八十八、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

八十九、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

九十、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

九十一、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

九十二、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

九十三、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

九十四、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

九十五、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

九十六、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

九十七、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

九十八、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

九十九、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

百、薩哈連州兵第ニ砲兵大隊

西七七五五出書後

0170

0518

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

http://www.jacar.go.jp

步兵第十三旅團  
 舊薩哈連山砲兵大隊  
 工兵第七大隊  
 細部ニ關シテハ參謀總長ヲシテ  
 指示セシム  
 大正十年六月七日

日  
 月

(明治印刷)

5160

0519

極秘

寫

奉勅

參謀總長子爵上原勇作

薩哈連州派遣軍司令官兒島惣次郎殿

第二師團長中島正武殿

第七師團長内野辰次郎殿

第十七師團長古海嚴潮殿

1560

0520



極秘

寫

參謀本部 命第五六六第一

指示

作命第六十五號命令ニ基キ左ノ指  
示ヲ爲ス

一、チャイオ方面ニ在ル部隊ノ交代ハ航路  
ノ開通ヲ待テ八月下旬頃之ヲ行フ

二、第二師團長ハチャイオ方面ニ派遣  
スヘキ歩兵第一中隊ヲ所屬兵營ニ於テ

待命セシムヘシ

大正十年六月七日

參謀總長子爵 上原 勇作

0522

(明治印刷)

第十七師團長	古海	潮殿
第七師團長	内野辰次郎殿	殿
第二師團長	中島正武殿	殿
薩哈羅州派遣軍司令官	兒島惣次郎殿	殿

自

0523

出典

寫

極秘

參謀本部

命第五八二號第一

指示

一、來ル八月「チヤイオ」方面ニ在ル部隊

ノ交代ヲ行フ

二、第二師團長ハ待命中ナル歩兵一

隊ヲシテ八月上旬其衛戍地ヲ出

發セシムヘシ

大正十年七月二十日

參謀總長子爵上原勇作

薩哈連洲遠軍司令官 所田經宇殿

第二師團長 中島正武殿

第七師團長 内野辰次郎殿

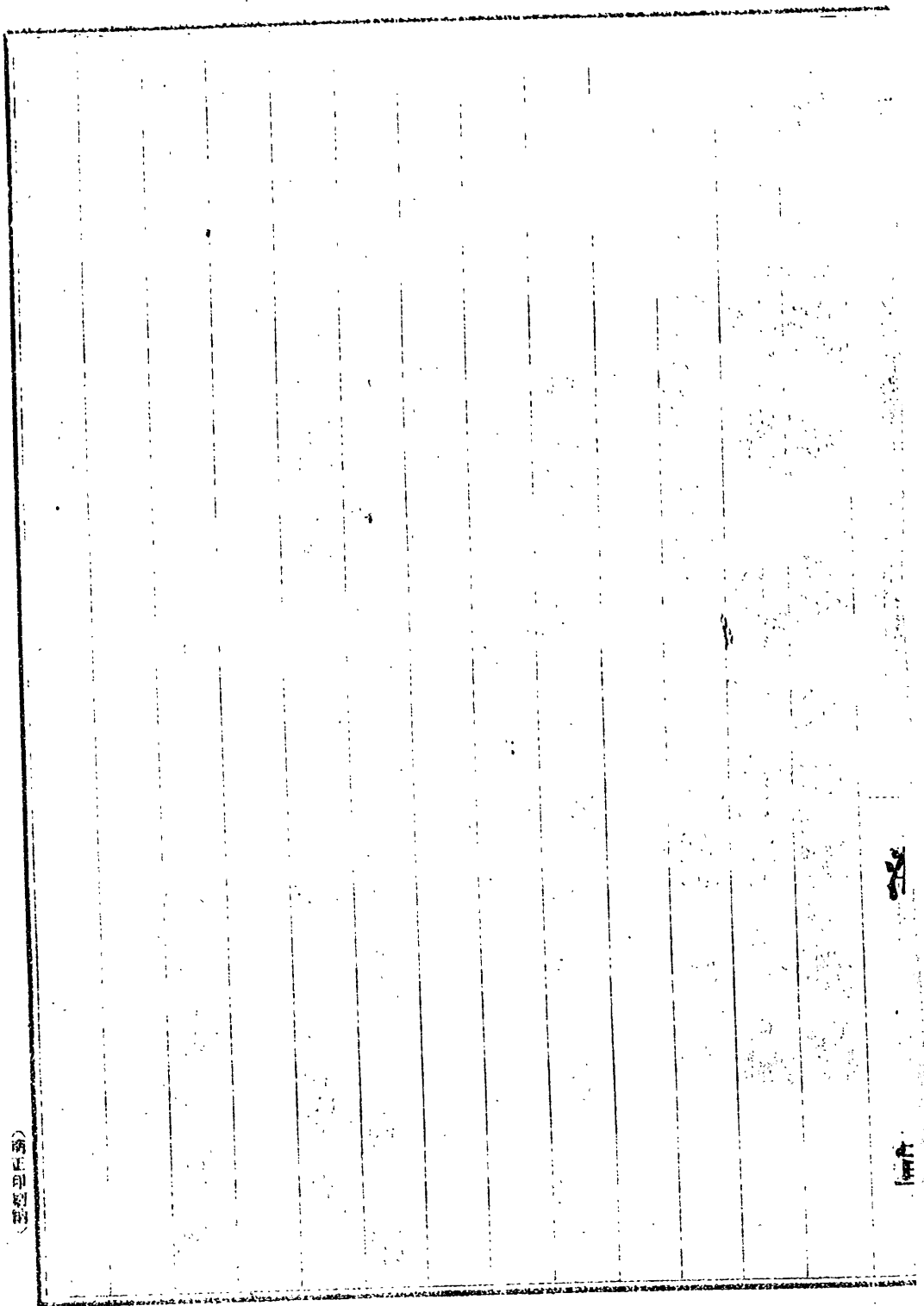
軍

軍

0280

0524





(南正印刷所)

AS20

0525

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

編第三十二號



步兵第三旅團、工兵第二大隊及當該留守隊並第二師團ニ  
於テ山砲兵一大隊ノ編成ヲ令セラル編成第一日ハ六月八日ナリ  
大正十年六月七日午前十時

陸軍大臣男爵田中義一

海軍大臣男爵加藤友三郎殿

軍務



陸軍

0526

西の五五五五五

海軍省

秘



格部 作命第六六號

命令

一、步兵第十六旅團及工兵第八大隊第

一中隊ヲ浦潮派遣軍司令官ノ隸

下ニ増加ス

二、第八師團長ハ步兵第十六旅團及

工兵第八大隊第一中隊ヲ西伯利

ニ派遣スヘシ

前記諸部隊ハ浦潮上陸ノ時ヲ以

テ浦潮派遣軍司令官ノ隸下ニ入ル

モノトス

三、輸送ニ関シテハ參謀總長ヲ以テ指

美濃金葉十三行算紙

0527

示セム

大正十年十二月十四日

奉勅

參謀總長子爵上原勇作

浦潮派艦軍司令官之花小一郎殿  
第八師團長小野寺重夫殿

(小林印刷精)

0528

0528

陸軍大臣加藤友三郎殿

編第三十四號

第八師團(歩兵第十六旅團、歩兵第八大隊第一中隊、

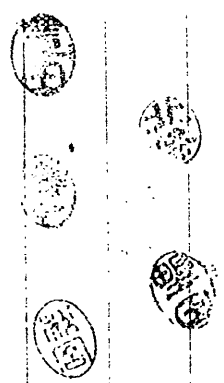
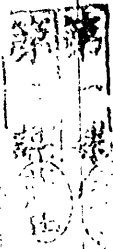
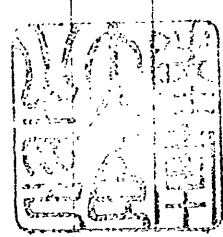
輜重監視隊、歩兵第十七、第五十二聯隊留守隊缺)

ノ編成ヲ令セラル編成第一日ハ四月二十一日ナリ

大正十一年四月十九日午後二時

陸軍大臣山梨半造

海軍大臣男爵加藤友三郎殿



陸軍

0529

（四）（五）（六）（七）

寫

極秘

本報作命第六七號

命令

一 第八師團主力ヲ西伯利ニ派遣シ第十一師

團ヲ内地ニ歸還セシム

二 第八師團（歩兵第十六旅團工兵第八大隊第一中隊

又第八師團輜重監視隊欠）ハ四月下旬ヨリ其衛

戍地ヲ出奔スルヘシ

三 浦潮派遣軍司令官ハ第八師團ノ浦潮到着

後第十一師團ヲ内地ニ歸還セシムヘシ

四 第八師團ハ浦潮上陸ノ時ヲ以テ浦潮派遣軍司

令官ノ隷下ニ入り又第十一師團ハ内地港灣上陸

ノ時ヲ以テ浦潮派遣軍司令官ノ隷下ニ脱スルモノト

ス

海

軍

滿洲軍第十三行軍隊

0530

海軍 陸軍中隊十三行露城

二、歩兵第十六旅團及工兵第八大隊第一中隊ハ第八師團長浦潮上陸ノ時ヲ以テ其隸下ニ復歸

スルモノトス

六、輸送ニ関シテハ參謀總長クシテ指示セシム

大正十一年四月十九日

奉勅 參謀總長子爵上原勇作

浦潮依遣軍司令官三花小一郎殿

第八師團長小野寺重太郎殿

0531

秘

寫

參謀本部 作命第六八號

命令

一、第二、第十三、第十四師團ノ一部隊ヲ薩哈連州ニ派遣シ薩哈連州派遣軍ノ主力ト交代セシム

二、第二、第十三、第十四師團長ハ左記區分ニ從ヒ其下部隊ヲ六月下旬ヨリ薩哈連州ニ派遣スヘシ

第二師團長

歩兵第二十五旅團

薩哈連砲兵隊

第十三師團長

薩哈連工兵第一中隊

第十四師團長

薩哈連工兵第二中隊

三、薩哈連州派遣軍司令官ハ前項部隊ノ到着ニ伴ヒ左記部隊ヲ内地ニ歸還セシムヘシ

海軍

陸軍部第十三行軍隊

0532



海 軍

海軍省 第三行軍隊

歩兵第三旅團

薩哈岬山砲兵大隊

工兵第二大隊

四、細部之虞ニテハ參謀總長ヲテ指示セム

大正十一年六月十日

奉 勅

參謀總長子爵上原勇作

薩哈岬州旅團軍司令官所田經幸殿

第二師團長 長坂研介殿

第十五師團長 河村正為殿

第十四師團長 朝久野勘十郎殿

（原心）

0533

11

參一發第百七十九號

大正十一年十月四日

參謀總長

# 供覽

通報

八月下旬以來實施中ナリシ露領沿海州及北滿洲ニ在ル  
陸軍諸部隊、撤去及歸還行動ハ十一月二日第八師團最  
後部隊、衛戍地歸著ヲ以テ無事終了セリ

軍務局

下巻

附

陸軍省  
大正十一年十月四日

陸軍省

陸軍省

官房受  
陸軍省  
大正十一年十月四日

0534